



# 個人自由制作

2GD131 番宮崎慎己

# 概要

今回の課題はこの2年間の総力戦。

「Illustrator」、「PhotShop」、「InDesign」この3つを使い、自分の持てる力を全部出し切ろうと思いこの内容を選択しました。

内容は四聖獣で有名な「青龍」「白虎」「朱雀」「玄武」の4匹をモチーフにオリジナルキャラクターを作成する というもの。

オリジナルで作品を作ることには個人的に因縁があり、苦手だった「女性」キャラを完成させ、卒業する前にこの因縁と決着をつけようと思いました。

冬休み前からスケジュールを組みそうとな時間をかけ行われたこの課題、とても大変でしたがやりがいがありました。

# 目次

004 青龍

006 白虎

008 朱雀

010 玄武



# 神獣としての青龍

青龍（せいりゅう、せいりょう、拼音：qīnglóng チンロン）は、中国の伝説上の神獣、四神（四象）の1つ。東方青龍。蒼龍（そうりゅう）ともいう。天之四霊とは蒼龍、朱雀、玄武、白虎のこと。

現代日本語では青は英語で言うブルーを意味することが多いが、「青」の原義は青山（せいざん）・青林（せいりん）のように緑色植物の色であり、本来は緑色を指しているとされる。

東方を守護する。長い舌を出した竜の形とされる。

青は五行説では東方の色とされる。

また、青龍の季節は春とされている。

天文学上は、二十八宿の東方七宿に対応する。東方七宿（角宿・亢宿・氐宿・房宿・心宿・尾宿・箕宿）をつなげて竜の姿に見立てたことに由来する。

道教における人格神化した名前では、神君「孟章」と呼ばれ、「龍族」の始祖とされた。

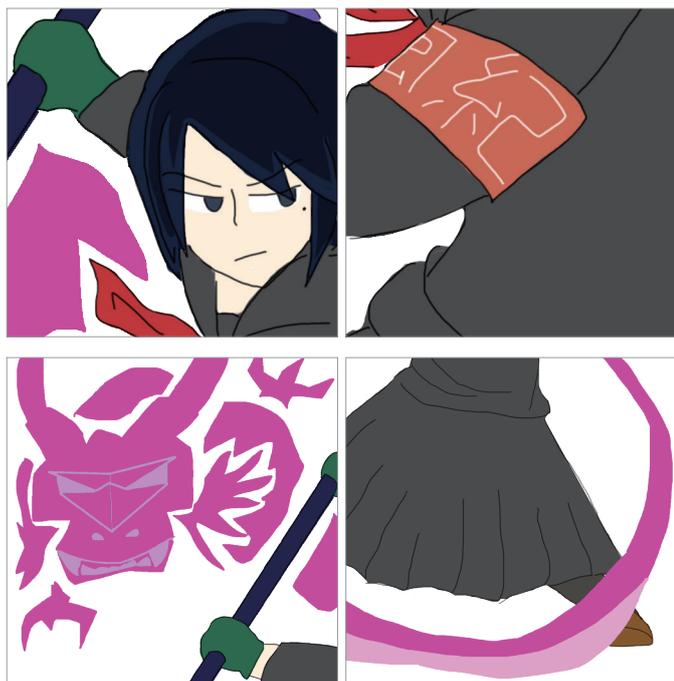
清瀧権現の善女龍王は中国・青龍寺に飛来したという。

秩父神社の「つなぎの龍」が青龍である。

俳句において春の季語である「青帝（せいてい）」・「蒼帝（そうてい）」・「東帝」と同義であり、春（東・青）の象徴である。但し、「炎帝」・「白帝」・「玄帝（冬帝）」と違い、「青帝」はあまり使われない季語であるため、小型の歳時記や季寄せから削除されている場合が多い。

なお、春のことを「青春」ともいう。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



## キャラの詳細

青龍は春を司る存在。そこで桜のような桃色を武器に纏わせて戦うようなイラストにすれば映えるのではと思い作成を開始しました。そして中国には、「青龍偃月刀（せいりゅうえんげつとう）」という巨大な刀があるのでその武器を持たせました。

モチーフカラーの青（緑という説もあるが）の髪と桃色のオーラを纏った青龍偃月刀は思いの外相性がよく良かったと思いました。（学生モチーフにした理由は、青春の語源が青龍に関連しているという部分から閃きました。）

白虎



# 神獣としての白虎

白虎（びゃっこ、拼音：báihǔ バイフー）は、中国の伝説上の神獣である四神の1つで、西方を守護する。白は、五行説では西方の色とされる。

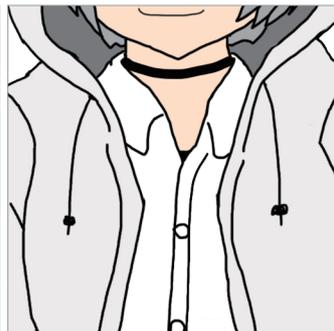
文献上は『礼記』曲礼上や『淮南子』天文訓に載せる。なお、漢代の文献には西方を白虎としないものもあり、『礼記』礼運では虎のかわりに麒麟を四霊にあげている。また『史記』では西方を白虎でなく咸池とする。

細長い体をした白い虎の形をしている。  
また、四神の中では最も高齢の存在であるとも言われている。（逆に、最も若いという説もある）

中国天文学では、周天を天の赤道帯に沿って4分割した1で、二十八宿のうち西方七宿（奎・婁・胃・昴・畢・觜・参）を総称して白虎とした。

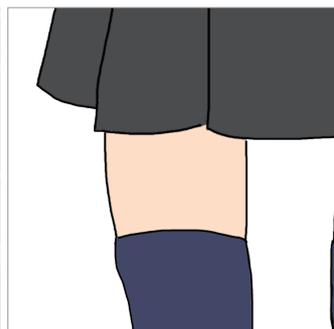
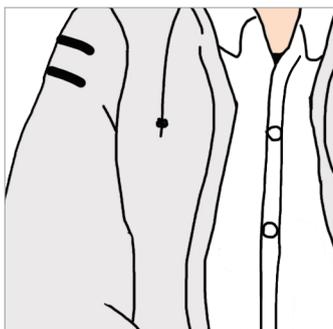
俳句において秋の季語である「白帝」と同義であり、秋（西・白）の象徴である。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



キャラの詳細

白虎は虎モチーフということでとても恐ろしく描かれることが多いが、逆にとても可愛く描こうと決めました。  
モチーフカラーの白をふんだんに入れ、虎の要素として彼女が来ているパーカーに虎のモチーフを組み込ませました。  
今回作った中で一番良い出来だったと思いました。



朱雀



# 神獣としての朱雀

朱雀は南方を守護する神獣とされる。長生の神とされ、天之四霊の一つである。翼を広げた鳳凰様の鳥形で表される。朱は赤であり、五行説では火の象徴で南方の色とされる。同じく中国古代の想像上の鳥である鳳凰とは異なるが、同一起源とする説もあり、同一視されることもある。あくまで神格のある鳥であり、信仰の対象ではあるがいわゆる悪魔や唯一神、列神の類ではないことが最大の特徴である。

俳句において夏の季語である「炎帝」・「赤帝」と同義であり（黄帝と争った古代中国神話の神とは別）、陰陽五行説では火であり、夏（南・朱）の象徴である。春・秋・冬の場合はそれぞれ「青帝（蒼帝）」・「白帝」・「玄帝」と色に相応する名前があるが、夏の場合は「炎帝」しか普及していない（「赤帝」はほぼ使われておらず、「朱帝」に至っては歳時記に掲載されていない）。なお、夏のことを「朱夏」ともいう。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



キャラの詳細

最後にこのキャラを作りました。ですが他のキャラクターと区別をつけるのにとても苦労しました。予定から服装から大きく変更させ、マンネリから脱却したいあまり四神っぽさがなくなってしまったのが反省点



玄武



# 神獣としての玄武

玄武（げんぶ、拼音：xuánwǔ ショワンウー）は、中国の神、四象の「太陰（老陰）」、四神の一つ、霊獣。北の星宿の神格化。玄天上帝ともいう。宋代には避諱のため、真武と改名されている。清代には北極佑聖真君に封じられている。上帝翁、上帝公などとも呼ばれる。福建省では黒虎（こっこ）に置き換わっている。玄武は、北方を守護する、水神。玄は黒を意味し、黒は五行説では北方の色とされ水を表す。脚の長い亀に蛇が巻き付いた形で描かれることが多い（尾が蛇となっている場合もある）。ただし玄天上帝としては黒服の男性に描かれる。古代中国において、亀は「長寿と不死」の象徴、蛇は「生殖と繁殖」の象徴で、後漢末の魏伯陽は「周易参同契」で、玄武の亀と蛇の合わさった姿を、「玄武は亀蛇、共に寄り添い、もって牡牝となし、後につがいとなる」と、陰陽が合わさる様子に例えている。「玄武」の本来の表記は（発音は同じ）「玄冥」（「冥」は「陰」を意味し、玄武は「太陰神」とされた）であり、（北方の神である）玄武は、（北にある）冥界と現世を往来して、冥界にて（亀ト＝亀甲占いの）神託を受け、現世にその答えを持ち帰ることが出来ると信じられた。「玄武」の「武」は、玄武の「武神」としての神性に由来し、後漢の蔡邕は「北方の玄武、甲殻類の長である」と述べ、北宋の洪興祖は「武という亀蛇は、北方にいる。故に玄と言う。身体には鱗と甲羅があり故に武という」と述べた。玄武の武神としての神性は、信仰を得られず、唐宋以降には伝わらなかった。中国天文学では、周天を天の赤道帯に沿って4分割した1つで、北方七宿の総称。北方七宿の形をつなげて蛇のからみついた亀の姿に象った。奈良県明日香村のキトラ古墳の石室内の北側壁にも玄武が描かれている。俳句において冬の季語である「冬帝」・「玄帝」と同義であり、冬（北・玄）の象徴である。なお、冬のことを「玄冬」ともいう。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



## キャラの詳細

最後は玄武です。冬を司る水属性のキャラクター。  
ということで「氷」は必要不可欠だろうと思い、入れました。

足に氷でできたを纏わせ玄武の再現にもなっていていい  
と思いました。

